

友の会事業活動から

第34回 友の会会員作品展

世田谷美術館区民ギャラリーにて

11月17日(水)～21日(日) 出品者79名 出品作品数156点

前年に続き開催の危ぶまれた「第34回友の会会員作品展」、待ちわびた力作が揃った会場は、再開の喜びに満ち溢れ友の会の息が吹き返したような体でした。展覧初日から終了日まで共に鑑賞し、会員同士久し振りの交流を図る様に安堵しました。

美術館のコロナ対策に沿った制約を伴う今回の作品展は分散搬入出等、密を避ける出品要領を定めましたが、短い募集期間にもかかわらず多くの応募があり、講座の先生方からも特別出品を賜りました。講座作品(本年度)のない展覧会にもかかわらず、皆様のご理解とご出品により、例年に劣らない見ごたえのある作品展が実現できました。一点一点丁寧に鑑賞された酒井忠康館長は、その向上に感嘆しきりでした。またグラントマ・モーゼス展開幕直前の多忙の中、展示指導をいただいた橋本善八副館長ほか、館員の方々に諸々ご協力いただきました。会期中643人の来場者があり、今後の事業への目算もついた再開事業第一弾となりました。

(友の会総務企画部)



作品展会場の風景

私のお薦めアート本

グラントマ・モーゼス展のカタログ

河合照代

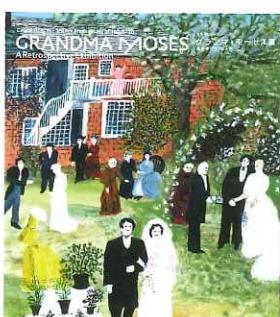
グラントマ・モーゼス展のカタログを長男が買って帰ったのが2021年11月24日で、その日の夕食後、その綺麗な本のページをワクワクしながら開きました。

来春には私も94歳、塔本シスコ展に続き、高齢の画家の展覧会という興味もあって読み始めたのですが、もう読み出したら止まりません。とにかく絵が面白くて美しいのに加えて、文章がとても分かりやすく奥深い内容を解説してくれるので、いつもは10時には床に就くのですが、12時頃まで読みふけっていました。

三日ほどで読み終わると本物の絵が見たくなります。次の日曜日に三男の車で世田谷美術館に連れて行ってもらい、音声ガイドを聞きながらモーゼスおばあさんの絵の世界を堪能しました。

「私の人生は、これ以上のものはなかったし、人生から最良の

ものを引き出したと思っています」と語ったモーゼスおばあさん。それにシスコ・パラダイスの塔本シスコさん。楽しく美しい思い出を絵に描きながら、人生を幸せに全うしたお二人に、本当にたくさんの元気をいただきました。



「会員作品展」に参加して

鳥越素子

2020年の春に突然始まった新型コロナウイルスの流行で、不要不急の外出は控えるとされ、多くの美術館が休館になりました。一時期からは緩和されましたが、美術館に行くのは不要でも不急でもないと言いたい思いでした。

現在感染者は今までになく減少していますが、いつかは増加に転じると言われている中で、薄氷を踏む思いで友の会展を企画していただいた世話を人々、ありがとうございました。二年ぶりの友の会展で、その間すべての実技講座もなかった中で、出品者が少ないのでないかと心配されていたかも知れません。始まってみたら多くの方が力作を出品されていました。二年のお休みの間も皆さんしっかり創作してこられたのだと感服いたしました。講座での作品がなかった分、より個性が出た作品が多かったように感じます。

私は少し遠方からの参加なので、知人に来てもらうということがあまりないので、同じ水墨画クラスの方、そのお仲間とかセタビでの友人も多くなっていましたことにも気づかされました。観ていただいて、うれしい批評もいただけて、人々に充実した気分を味わいました。

来年もまた、そして来年こそはいつも通りに友の会の行事が出来ますようにと願っております。

奥谷幸裕

2年ぶりに開催された本作品展に3点(水彩画2点、色鉛筆画1点)出展しました。友の会の講座も中断されている中、皆さん精力的に出展され、どれも個性が光る力作ばかりで、素晴らしい作品展でした。

3年前に本会と世田谷美術館美術大学に入り、絵を描き始めたのですが、コロナ禍の中でも楽しみが持てたこと、美大のクラスメートとLINEで作品を見せ合いっこなど、仲間の絆が深まつたことが何よりも収穫でした。

展出した作品は、JASSの写生会で描いた《北の丸公園 4月の昼下がり》、NHKのオンライン講座で描いた《シエナ カンポ広場》、2年前から始めた色鉛筆によるデューク・エリントンの名曲《Sophisticated Ladies》のポスターです。自分なりに良く描けたと思っていましたが、皆さんの作品を見ると、絵の力の弱さを痛感し、新たな励みとなりました。

期間中は天候にも恵まれ多くの方が来場され、家族や友人も来てくれました。本作品展開催に当たってご尽力された世話を人々に心より御礼申し上げます。

アートライブラリー通信

第5回 “灰色文献”の宝庫

世田谷美術館が刊行する印刷物には、展覧会図録、年報、紀要、報告書などがあります。これらは毎年、定期的に他の美術館や図書館に寄贈しています(定期的寄贈先: 展覧会図録は15ヶ所、年報紀要是約120ヶ所)。

一般的に、美術館が刊行する展覧会図録は、印刷部数が少なく、また、展覧会会場のみで販売されることが多いため、誰もがどこでも容易に入手できるとは言えません。紀要や報告書なども、インターネット上の公開が未対応の機関の資料は同様です。このような、通常の出版物の流通経路に乗らず、入手しづらい資料を図書館用語で“灰色文献”と呼びます。

展覧会図録には隠れたベストセラーもありますが、入手しづらい灰色文献の一種です。だからこそ、研究成果がひっそりと埋もれてしまわないよう、他の美術館や図書館に資料を寄贈しているのです。寄贈先の一つは、世田谷区立図書館。その中でも玉川台図書館は、当館の最寄りの公立図書館であり、地域資料として館内に「世田谷美術館資料コレクションコーナー」を設置してくださるなど連携を図っています。

アートライブラリーは、価値ある多くの“灰色文献”を所蔵しています。まさに“灰色文献”的宝庫。貴重な研究成果が様々な方の目に留まり、活用の機会が増えることを願っています。

2020-21年度の当館展覧会図録等。小冊子から出版社刊行の図録まで様々あります。

(世田谷美術館学芸部 司書／須藤美麗)

友の会から世田谷美術館に作品が寄贈されました

この度、友の会から世田谷美術館に貴重な作品が寄贈されましたので、感謝の意をこめて、ご報告させていただきます。

2020年からのコロナ禍により、美術館も友の会も活動の縮小や停滞を余儀なくされていますが、多くの心あるサポーターから浄財が寄せられ、その使い道として、何かかたちのある記念の品に変えたいとの意向を友の会から受けました。そこでかねてより古書店で売りに出ていた、小川千麿(1882-1971)の《越後遊絵日記》を購入して、美術館にご寄贈していただきました。

友の会では、かつて、平井一夫(1929-2004)の絵画作品、《裝》(1999年、キャンバス・アクリル、112.1 × 162.1 cm)を2000年に寄贈していただいたことがありますので、作品の寄贈は約20年ぶりとなります。

さて、この小川千麿は世田谷にゆかりのある重要な作家のひとりです。近年では、113号の「収蔵品から」にて、木版画の作品《西洋風俗大津絵》をご紹介しましたのでご存じの会員さんも多いはずです。

世田谷美術館には、小川作品は10点(水彩4点、木版4点、紙本着色の軸2点)を所蔵しています。《越後遊絵日記》は、全長540cmにも及ぶ長大な巻子で、新潟から柏崎までの6日間の旅の出来事を記録。識語にある標亭とは、本作の旧蔵者で、黒船館館主・吉田正太郎のことです。柏崎の呉服屋(花田屋)の三代目が吉田正太郎で、その弟の小五郎とともに収集した幕末開港資料は現在も「黒船館」として存続しています。

実は、資生堂名誉会長の福原義春氏から駒井哲郎の版画作品を寄贈いただいた後、この黒船館ととかかわりの深い、吉田正太郎と吉田小五郎兄弟の関係資料もいただいたおりました。正太郎関係は水彩2点と版画1点、小五郎関係では図書や書簡などの資料類が多数あります。正太郎は慶應幼稚舎で駒井哲郎の師であり、小五郎は福原氏の師でもあったのです。これらの資料を活用するうえで、今回の《越後遊絵日記》はとても良い資料となりました。

次回のミュージアムコレクションの一角(小扇形)を使って、お披露目をさせていただきます。ぜひご覧下さい。お待ちしております。

(世田谷美術館学芸部／矢野進)



小川千麿《越後遊絵日記》(部分) 1917年 紙、墨 18.0 × 547.0 cm(画面寸法) 撮影: 上野写真事務所

ミュージアム コレクション!

「美術家たちの沿線物語 大井町線・目黒線・東横線篇」

小コーナー：黒船館をめぐって——小川千麿・吉田正太郎・吉田小五郎(仮称)

2022年4月23日(土)-7月24日(日)

思い出の美術館

横須賀美術館

「思い出の美術館はどこ?」とあらためて考えたとき思い浮かんだのは、欧洲の美術館ではなく今までに訪れた国内の美術館でした。美術館は展示されている作品もさることながら、その建築や外構に興味関心があります。自然の地形や特性を生かしたランドスケープは美術館に入る前からどんなところだろうと想像力を喚起するようなコンセプトで設計されています。世田谷美術館もその好例です。

ここでは横須賀美術館(設計：山本理顕)について記します。普通、美術館の展示室は作品の保護のため光量を抑えていますが、この美術館は二重被膜構造を取り入れることで外光のさしむ展示室を実現しています。エントランスは天井や壁面に大小の丸い穴が開けられ明るく開放感のある空間となっています。東京湾を臨める屋上広場、谷内六郎の展示館、野外には若林奮の彫刻があり、広々した芝生の広がるレストランテラスではのんびりとした時間を過ごせます。これからも、日本各地に続々できている個性的な美術館巡りが楽しみです。



山口眞生

みんなのギャラリー

《朔(さく)》

江村史子

女子手垣繕へば鳴く鴉 大津信子

この鴉には男の視線を感じる。私を蹴ったカラスは中学生くらいだったのだろうか。立派な嘴と黒い目と薄灰色の下から上がる目蓋。青みがかった艶のある黒い羽根。荒らされた集積所のネットをかけ直しながら距離1mくらいでの観察。次の収集日に後頭部をドンと蹴られた。カラスの画像検索をしていると撃退マシンの広告が大きく出て今でも消えない。黒くて美しく、濃墨を踊らせたい素材なのに気の毒なことだ。

友の会水墨画講座の佐藤良助先生の毎日筆を持つという教えが、一年以上も頭からとんでいた。友の会展のお知らせが届くと、私は墨を磨り紙を切り、避けていた渋谷の画材店まで走った。久しぶりの渋谷はあいかわらずの人混みだったがなんだか静かだった。このような時代このような世界。白いカラスがいることも知った。

バックに二回墨を入れた。乾くと思ったより明るい。何かが変わり、始まる刻。吉兆にしておこう。



鈴木照葉学芸員に聞く

昨年4月に世田谷美術館に入られ、熱意溢れながらも落ち着いた雰囲気の
鈴木照葉さんにお話を伺いました。



Q1. 学芸員になりたいと思われたきっかけをお聞かせください。

子どもの時からずっと絵を描いたり、観たりすることがとても好きでした。大学2年の時に、東京国立博物館のインターンに5日間参加させていただいた際、専門性を持ち仕事をされる学芸員の皆さんのお姿に感銘を受け、学芸員を目指すようになりました。

Q2. 学生時代に学芸員になるために特に学ばれたことはありますか。

実地での経験を重ねました。学部2年から修士課程2年までの4年間は、学芸アルバイトとして美術館に勤め、学芸業務に携わさせていただきました。また、博士課程では1年間大学のアートセンターで展覧会の企画補佐をし、書の展示から建築家の展示まで幅広いジャンルの展覧会に携わさせていただきました。

Q3. 学生生活で他にどんなことを楽しまれましたか。

友人と国内をひたすら旅行しました。日本酒が好きなのでその酒蔵を見学したり、ご当地グルメを食べたり、地元の方が行かれるような銭湯を訪れたりと、その土地について知る旅が好きでした。

Q4. コロナ禍の最中に就職活動をされ、世田谷美術館に入られた印象はいかがですか。

たくさんの人の美術に対する思いが集約された美術館、という印象を

受けました。コロナ禍を経たからなのか、この美術館では人同士のつながりというものをひしひしと感じます。区民の皆さんのお声を間近で聞きながら、一緒に楽しむことができるような事業を展開していきたいです。

Q5. ここではどのような仕事をされていますか。

普及担当の配属となり、鑑賞教室やワークショップ、区民展などを担当しています。本から得た知識で勉強をしていた大学生活とは異なり、この美術館では人との関わりによって多くのことを学んでいます。ボランティアの方々、小学校の子どもたち、インターンの大学生、講師や作家の方々など、毎日のように様々な世代の方々と関わり、発せられる言葉に刺激を受けながら仕事をしています。

Q6. 今も研究は続けていらっしゃるのですか。

博士課程は休学中ですが、研究は引き続きしています。研究分野は古代から中世の日本美術、現在は大阪・四天王寺に所蔵されている聖徳太子の生涯の事跡が描かれた作品の研究をしています。今回の作品は画面の剥落が激しかったため、その描き起こしから行いました。2021年は聖徳太子の1400年の遠忌だったこともあり、展覧会にも少し携わらせていただきました。

Q7. 最後に、美術館と友の会がともに盛り上がると良いのですが。

友の会に入っていることで、皆さまが美術館をより楽しめるように私も尽力いたします。コロナ禍でも美術館を身近に感じてもらえるよう、感染症対策を行った上で対面講座の実施やオンラインでの展開等、豊富にしていきたいですね。

(インタビュー／友の会広報部)

世田谷美術館ミュージアムショップ

ご来館の思い出にどうぞ

世田谷美術館が開館した1986年当初からミュージアムショップは変わらない場所で運営を続けております。作品を鑑賞されたお客様に思い出を持って帰っていただけるよう、学芸員と相談をしながら企画展ごとに商品を入れ替えております。店内は、車いすの方や、小さなお子様でも商品を手に取りやすいよう、低めの陳列と広い通路を心がけております。

2021年11月から新商品を入荷いたしました。海苔好きだった北大路魯山人と1849年創業の海苔専門の老舗山本海苔店がコラボした「焼海苔(1袋5枚、40袋入)」、個包装になっているため賞味期限が長く、いつでも新鮮な海苔を味わっていただけます。新型コロナウイルスが流行し、なかなか会えないあの人へプレゼントしてみてはいかがでしょうか?

ミュージアムショップは観覧券なしでいつでもご利用いただけます。砧公園のお散歩ついでにぜひお立ち寄りください。(世田谷美術館総務部)

*「焼海苔」1箱5,400円(税込み)

*友の会会員はミュージアムショップでのお買い物の合計額が1,000円以上の場合、10%割引きとなります(一部割引対象外もあります)。



■新しい会員証

2022年度の会員証のデザインが決まりました。



稻垣知雄 作

《子猫の群像》

1975年 木版

■ご寄付のご報告及びお礼

世田谷美術館友の会では、会の存続と美術館支援のために皆さまに会員継続とご寄付をお願いしております。

寄付金は2022年1月31日現在、累計で994,848円となっています。皆さまのご協力により、コロナ禍にあっても友の会は作品展や解説・鑑賞会を実施しています。また予算にしたがい寄付金の一部で購入し、美術館の収蔵となった小川千麿画巻《越後遊絵日記》を本誌で紹介しています。

さらに美術館正面広場のイルミネーションも昨年よりも増設しました。夕闇の美術館を青い光で美しく飾りました。

ご寄付をいただいた皆さまと会員更新をしていただいた皆さまに心よりお礼を申し上げます。

佐藤礼子 神崎七重 吉楽藤子 寺岡幸子 匿名3名

(前回以降の方々、順不同、敬称略)

(会費と寄付金の郵便口座 口座記号:001303 口座番号:119860 名称:世田谷美術館友の会)

■これから事業について

◎友の会総会 5月13日(金)

◎各種実技講座 4月以降予定

*各事業につきましては実施の詳細が決まり次第、会員の皆さんにチラシや友の会ホームページ等でお知らせいたします。コロナ禍の中での制約はありますが、美術館のご協力を得ながら、可能な限り事業の実施を検討してまいります。

世田谷美術館友の会への入会のご案内

世田谷美術館エントランスにはラテン語で「芸術と自然は密かに協力して人間を健全にする」と彫り込まれています。館のサポートー・ファンクラブである友の会に入会し、生活に彩りを加えてみませんか。特典や入会手続きは下記へ。



お問い合わせは友の会事務局へ

入会案内(リーフレット)や

下記ホームページもご覧ください。

tel.03-3416-0607

<https://setabi-tomonokai.jp/>

